

スーダンで車両整備支援

「人々のニーズはあらゆる分野にわたる。少しでも力になりたい」。20年以上にわたる内戦を終えたスーダン南部ジュバで、車両整備の支援活動を始めた日本国際ボランティアセンター（JVC）スタッフ、岩間邦夫さん（42）＝写真＝は、そう語る。

電気も水道もなく、生活基盤も整っていない。学校建設や農村開発などの活動に不可欠な車の整備に着目し、今夏、人材育成のための支援を始めた。帰還難民の若者に働く場を提供した。車の整備技術は、生活上のさまざまな場面で役立つ。国連難民高



等弁務官事務所（UNHCR）の車両整備を請け負うなどの実績も上げつつある。

「スパイの嫌疑で2日間、尋問された」「山間部に避難した」。仲間のスーダン人が漏らす言葉に内戦当時の壮絶さがよみがえる。スーダンの人々は「仕事ぶりもまじめで、平和さえ戻れば自らの力でやっていける人たち。現地で一緒に活動できることが希望につながる」と語る。

西部のダルフル地方では数十万人が犠牲となったとされる紛争が今も続く。「スーダンの現実を伝えたい」と、さらに継続的な支援を模索している。

【中尾卓司】